



景観に配慮した住宅

千倉・海の住宅

所在地：千倉町瀬戸

施主：鈴木 茂

設計：(有)黒木実建築研究室

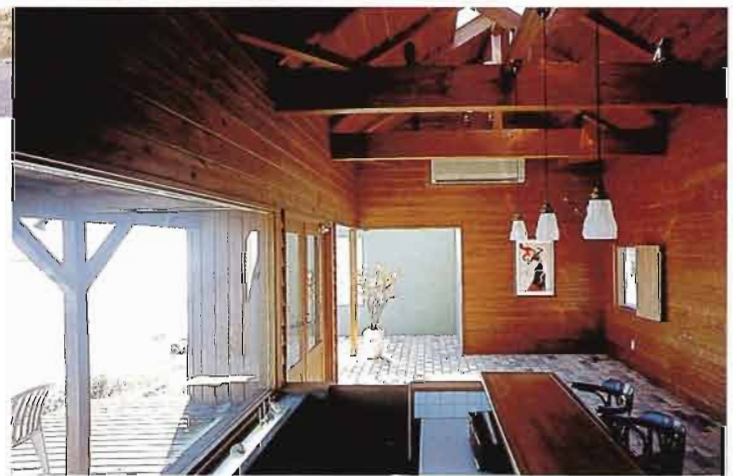
施工：加藤工務店 加藤 清



海沿いに走る国道と岩肌の多い海岸に挟まれた敷地に建つ木造の住宅で、南北に細長い敷地を有効に利用して配置されている。

外壁に杉板のたて貼りを用い、切妻屋根として気負うところなくシンプルにまとめた外観は、海辺に建つ住宅としてさりげない景観をつくっている。国道からの海の眺望をブロックしているのではないかと、塀にスリットをあけて海をかいま見せたらもっとよかった、との意見もあったが、幹線道路に面しながら点景要素となっていることを意識していない建物が多い中で、比較的好感のもてる形をしているということで賞に選ばれた。

出入口を中心に北側に住居部分を配し、これと一線を画して南側に配された平屋のサロンの存在が、単なる住宅ではなく、友人との交流の場も作ろうとした建主のライフスタイルを表現している。沓のままレンガ床のサロンに入ると、大きな窓の前のカウンターの内立つ主人と、窓越しに見える白く砕ける荒波が出迎えてくれる。気の合った同士の賑やかなパーティが真っ盛り。そんなドラマを感じさせる。どの居室からも



海の眺めが満喫できるが、とくにサロンの開口部は、海が飛び込んでくる迫力を感じさせた。この部屋では木造の構造材を単純な小屋組で表わし、屋根の明かり取りとともに大きな空間を演出している。

一方の国道側は開口部を小さくし、道路と居室の間にトイレや押入、ユーティリティ(家事室)を設けて居室への騒音対策を計り、奥行きのない敷地の欠点を補っている。

道路に面してはアプローチを誘導する塀や、車庫、空調室外機やポンベ置き場を遮る壁を、板貼りの外壁と一体のデザインにして、さりりと処理している。

(島貫俊秀)